

12月に実施した生徒331名、教師21名、保護者160名による学校診断アンケートの結果(資料1)をはじめ、全校生徒対象の教育相談アンケート(5,10月)の結果(資料2,3)、体育祭と文化祭の参観者アンケートの結果(資料4,5)を参考に、主に4つの重点努力目標について本年度の取組を振り返り、課題と対応策を示す。

重点努力目標 行事を核とした主体的で活力ある学校生活の推進

※「自分からあいさつをする」と答えた生徒は昨年同様90%を超え、全校で94.0%であった。(=資料1-①)生活委員会を中心に、年間を通して「あいさつキャッチボール」「あいさつハイタッチ」など工夫してあいさつ運動に取り組んだ。また、学年委員会が生活委員会に協力してあいさつ運動を盛り上げた。しかし、約25%の教師、保護者は全体的には不十分と感じている。あいさつについて生徒の意識は高まっているが、まだまだ「日頃から進んであいさつできる」には至っていないと考えられる。

引き続き来年度も、年間を通して計画的に「あいさつ運動」を実施し、生徒が主体となる運動として展開していくと共に、PTAとの連携・協力を図る。また、日常の学校生活の中で、すべての教師が「おはようございます」「こんにちは」と声をかけていく。

※「各種の行事が楽しい」と答えた生徒は昨年同様90%を超え、全校で97.3%であった。(=資料1-②)どの行事についても、生徒の主体的な活動を促すよう委員会や実行委員会を中心に準備運営を行ってきた。「楽しかった」「良かった」「感動した」といった参観者の感想が多かった。(資料4,5)

※「みんなのためになることを進んで行っている」と答えた生徒が全校で84.0%であり、昨年度から若干増えている。(=資料1-⑨)また、※「自分は学校で認められていると思う」と答えた生徒が79.4%であり、昨年度から数%増えている。(=資料1-⑩)教師の中には「生徒たちの自己有用感は低いと感じる。何とかして『認められている』と思えるよう、働きかけ、声かけ、目配りをしていきたい」という反省がある。

生徒が「ありがとう」と言ってもらえる機会が増え、生徒の自己有用感は年々高まりつつあるが、生徒の活動状況からすると、もっと自己有用感が高くなってほしい。

来年度は、『ありがとう』と言ってもらえたことは、その人から認めてもらえたということであると機会をとらえて伝えていきたい。また、引き続き生徒が「ありがとう」と言ってもらえる機会を多く作るように努める。

重点努力目標 学ぶ喜びのある授業づくりの推進

※「授業は、学びやすい」と答えた生徒が全校で89.2%であり、昨年度から数%増えている。(=資料1-③)今年度も一人一人みんなが学び合う授業を目指し、教師の力量向上のために一人一授業公開による校内授業研究を進めてきた。授業改善が進みつつあり、全体としては生徒が落ち着いて学習に取り組んでいる。また、※「授業で分からないことについて、先生に質問しやすい」と答えた生徒が全校で82.7%であり、昨年度から約6%増えている。(=資料1-④)一方で教師の中には「質問の時間設定ができればよいと思う」「学習会を行いたかった」という反省がある。保護者の中にも、「質問する時間を作ってほしい」「分からないところを教えてもらう機会を作ってほしい」という意見がある。

来年度も引き続き、学びやすい授業を目指し、教師の授業力向上のためにさらに校内授業研究を進め、日常授業の改善に取り組む。また、テスト週間などに質問会や学習会の実施を検討していく。

重点努力目標 深い生徒理解ときめ細かな生徒指導の推進

※「学校に仲のよい友達がいる」と答えた生徒は昨年、一昨年同様90%を超え、全校で98.5%であった。(=資料1-⑦)また、5月と10月の教育相談アンケートの結果、友達関係(人間関係)で悩んでいる生徒は、5月が10%未満、10月が5%以下であった。(=資料2-1,3-1)全体としては生徒の学校内での人間関係は良好だと考えられる。

※「先生たちは、困っていることについて、よく取り組んでくれる」と答えた生徒が全校で87.0%であり、昨年度から若干増えている。(=資料1-⑥)また、※「自分の気持ちを分かってくれる先生がいる」と答えた生徒も全校で83.7%であり、昨年度から数%増えている。(=資料1-⑤)今年度も、日頃のあいさつや声かけと受動的な態度によって生徒との良好な関係を築き、教育相談を充実させ、生徒の困っていることについて深いところまでかかわるように努めてきた。全体としては生徒と教師の関係はおおむね良好だと考えられる。

来年度は、教育相談の方法を工夫し、教育相談前のアンケートに加え月1回の簡単なアンケートを行うなどして、生徒自身がSOSを発しやすい環境を作るよう努める。また、スクールカウンセラーや近隣大学と連携し、養護教諭と学級担任が協力して心の健康に関する学習を計画的に進めていく。

重点努力目標 積極的な情報発信と地域の教育力の活用

学校広報については、※「学校が保護者に出す文書(たより、連絡等)やホームページの内容は、分かりやすい」と答えた保護者が90.7%。(=資料1-⑫)また、※「学校は、子どもたちの様子を積極的に伝えようとしている」と答えた保護者は80.7%であった。(=資料1-⑪)

今年度も、学年だよりや学校だより、学校ホームページで、教師がうれしく感じた生徒の様子を具体的に知らせるよう努めてきた。

来年度も引き続き、各種文書の表現や表記、レイアウトなどを工夫し、より分かりやすいものにしていく。また、日頃の生徒の良いところを見つけ、学年だよりや学校だより、学校ホームページを通して積極的に知らせていくと共に、困っていることや改善していきたいことも知らせていく。

開校3年目となる今年度も、昨年度に続き生徒の自己有用感を高めるために、学年、学級、生徒会、委員会等、それぞれの担当で、生徒が「ありがとう」と言ってもらえる機会をつくることに努めてきた。昨年度行った有志による地域清掃活動は台風の影響で今年度は中止となった。2学期終業式前日に行った校内美化活動(=ピカピカ隊)には200名を超える有志生徒が参加した。また、花の苗の植え付けやワックスがけにも、多くの有志生徒が参加した。竹の山小学校委員会との連携・協力は、合同イベントに加え常時活動でも進めることができ、活動の機会が増えた。

※「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒が前年度88.6%よりも増え93.4%であった。(=資料1-⑧)

年度当初の目標90%を超えた。また、生徒アンケートのすべての項目について「C：あまりあてはまらない」と「D：あてはまらない」の合計を前年度よりも減らすという目標も達成できた。(=資料1-①～⑩)

これらのことから、今年度の目標は達成できたと考えられる。

来年度も引き続き、90%の生徒が「学校に行くのが楽しい」と答えることを目標にする。

※「・・・・・・」と答えた生徒(または保護者)とは、アンケートの各質問に「A：よくあてはまる」または「B：どちらかと言えば、あてはまる」と回答した生徒(または保護者)を示す。

第3回学校評議員会(3/7)において、本年度の本校自己評価について報告し、各評議員から意見聴取した。その結果、自己評価について修正等の指摘はなかった。